

繰り返さないために、紡ぐ言葉。
－ハンセン病問題を考える－



胎児慰霊碑

強制的に堕胎された子どもを
供養する碑（平成20年築）



初代納骨堂

吾平山上陵を模して造られた
半地下式納骨堂(昭和14年築)



初代火葬場

昭和10～24年まで使われた、赤レンガ造
りの火葬場。隔離政策の象徴とされる。

星塚敬愛園には、忘れてはなら
ない歴史を伝える史跡が数多く残
されています。
かつて「患者自らが療養所を運
営する」という状況に置かれた同
園では、軽症の入所者が重症者の
看護及び介護にあたり、橋の建設
や火葬業務なども入所者自身の手
で行われていました。
当時の偏見や差別の歴史を伝え
る史跡は、今も大切に残されてお
り、園内の「社会交流会館」では、
当時の様子が分かる貴重な資料や
書物などが展示されています。歴
史を紡ぐまちの市民として、正し
い理解と人権への意識を深めるた
めに、ぜひ一度見学にお越しくだ
さい。

歴史を紡ぐモノ 数々の史跡



旧居住区棟

以前使われていた居住区棟。1人1畳の
居住スペースしかない時期もあった。



原田 玲子 さん

星塚敬愛園社会交流会館学芸員。三重県
四日市市出身。介護職員を経て学芸員の
資格を取得し活動する。

一方で入所者の高齢化に伴い、
直接お話を伺う機会が失われつつ
あります。だからこそ、私たちは
入所者の生の声から歴史の真実と
現状を学び、人権の尊さについて
一人ひとりが考え続け、未来へ語
り継いでいく責任があると考えて
います。

「記憶の継承」が急務となってい
ます。

歴史を紡ぐヒト 次世代につなげる責任

令和8年7月末現在、星塚敬愛
園には44名が入所されており、平
均年齢は90歳を超えています。当
時を知る方々が少なくなるなか、
同じ過ちを繰り返さないためにも
「記憶の継承」が急務となってい
ます。

その後にも入所者は瞬く間に増加
し、開園してわずか40日で定員を
超えることとなり、昭和18年には
最大で1,347人が入所するま
でになりました。

一挙に収容されました。

星塚敬愛園は設立され、全国に13
ある国立ハンセン病療養所のうち
9番目の開設となりました。当時
の敷地面積は約17万1,600㎡
に及び、60棟の建物と定数300
床で始動。開園して5日目には患
者の入所が始まり、同年12月には
沖縄・奄美の患者200人以上が
一挙に収容されました。

（星塚原）が誘致先となりました。

こうして、昭和10年10月28日に
星塚敬愛園は設立され、全国に13
ある国立ハンセン病療養所のうち
9番目の開設となりました。当時
の敷地面積は約17万1,600㎡
に及び、60棟の建物と定数300
床で始動。開園して5日目には患
者の入所が始まり、同年12月には
沖縄・奄美の患者200人以上が
一挙に収容されました。

星塚敬愛園は、地元大始良村出
身の衆議院議員で、後に鹿屋市長
も務めた永田良吉氏によって誘致
されました。

星塚敬愛園の設立

「政治は愛なり」 敬愛園設立に燃えた男



永田 良吉 衆議院議員

星塚敬愛園は、地元大始良村出
身の衆議院議員で、後に鹿屋市長
も務めた永田良吉氏によって誘致
されました。

当時、沖縄・奄美を中心とした
南九州は、ハンセン病患者が全国
的に多い地域でした。いち早く療
養所を誘致しなければならな
い、若手議員だった永田氏は、地
元の激しい誘致反対活動や家族を
巻き込んだ迫害等があったにも関
わらず、熱心な誘致運動を展開し、
同園の設立を実現させました。

永田氏の「政治は愛なり」とい
う言葉は、この時に生まれたもの
とされています。また、星塚敬愛
園の「敬愛」は初代園長・林文雄
氏が西郷隆盛の「敬天愛人」から
ヒントを得たとされています。



親子療養所訪問に参加した鹿屋市在住の親子
太田 恵子 さん(左)・隼人 さん(右)
葵 さん(中)

娘の興味がきっかけ 家族で学ぶ人権

小学6年生の娘が学校でハンセ
ン病問題を知ったことをきっかけ
に、県主催の親子療養所訪問で星
塚敬愛園を訪れました。

娘は、「中はとても広くて、お
店や郵便局もあった。便利だ
と思ったけれど、それは一歩も外に
出さないうえに、それを知って悲し
かった。」と話していました。

息子は、「法律は変えられても
人の心は簡単には変わらないた
め、正しい知識と歩み寄りが大切
だ。」と深く受け止めていました。

私も、偏見や差別のない社会に
するには、正しい知識を持ち、様々
なことに興味を持って相手に接す
ることが重要だと痛感しました。
これからは一人ひとりの個性を大
切にし、互いに歩み寄る姿勢を心
掛けていきたいです。